

## 「現在（いま）研究会」報告

12月8日（土）山口大学経済学部の山本勝也さん（国際経済学専攻）に、「グローバル金融資本主義と世界経済の危機」との題目で、「経済の金融化」という視点から「世界経済」の「現在」を診断していただきました。

1971年のニクソン・ショック（金・ドル交換停止＝変動相場制）以降、最終決済手段を失った貨幣が金融の自由化のなかで実体的価値から「自立」し（価格と価値の区別の消滅、間接金融＝銀行融資中心から直接金融＝証券中心へ、金融のディスインターミーディエーション化）、「米ドル中心の国際通貨金融システム」＝「グローバル金融資本主義」を構築してきている危機的な病理現象を、詳細なデータを駆使して解説していただきました。

山本さんの処方箋は、金融を「実体経済の拘束」の下に置くこと、すなわち、金融を「土地（自然）」と「労働」に根ざした「人間生活の安定や生産」に貢献させるようにすることで、「トービン税」による「国際協調的な規制」や「IMFの機能強化」というものです。山本さんの報告をめぐって活発な質疑と討論が行われました。（小畑）

また、10月例会では、塩野貞夫さんから「ある製造会社の変遷」と題して、「繊維・科学から製薬」への展開が報告されました。その過程は、報告者ご自身の会社勤め20年そのものとも重なる貴重なまた興味深いものでした。

というのも、戦後の日本資本主義の展開過程とちょうど時期的にも重なるものであり、戦後日本資本主義が高度成長を遂げる「石油関連産業」への転換を、まさしく象徴するものだったからです。

### 大森元理事「くらしきまちや賞」受賞

元理事の大森さんが、このほど表記の賞を受賞されることになりました。

この賞は、倉敷市が贈る賞で、町並み保存に尽力された方に贈られるものです。

大森さんは、県立高校の社会科の教員をする傍ら、郷土史研究に励んでこられ、「備中倉敷学」の顧問を勤められるとともに、倉敷美観地区の保存に尽力してこられました。

センター一同大森さんの受賞を心からお祝いいたします。

### 購読者拡大にご協力をお願いします！！

センターニュース20号でもお願いしましたように私たちの雑誌「人権21」も、読者が大幅に減っています。誌面の改善にも一層努力しなければならないと考えています。

もし購読者をご紹介いただければ、紹介者のお名前を添え、見本誌、入会案内などを、センターからお送りします。

直接交渉していただける場合は、見本誌など必要部数をご連絡下さい。

また、紙面改善のためのご提案など、お寄せ下さるようお願いいたします。